〔日本書紀四 綏靖〕神日本磐余彦天皇〇神武崩、〇略中手研耳命、行年已長、〇略中其王立操厝懷本乖仁義、

〔源氏物語十四 冷標〕こもちの君も、〇略中この御心をきてのすこし物思ひなぐさめらるゝにぞかしらもたげて、御つかひにも、になきさまのこゝろざしをつくす、

〔源氏物語五 若紫〕人々、かいりうわうのきさきになるべき、いつきむすめななり、心だかさくるしやとてわらふ、

〔後拾遺和歌集十九 雜〕山階寺供養の後、宇治前太政大臣〇藏原頼通のもとにつかはしける、

堀河右大臣〇藤原頼宗

ふかきうみのちかひはしらずみかさ山心たかくもみえしきみ哉

〔倭訓栞中編 古八〕こゝろくゞ　万葉集に情具久と見ゆ、心くゞもるをいへり、

〔萬葉集四 相聞〕同坂上大嬢贈家持歌一首

春日山霞多奈引情具久照月夜爾獨鴨念、

〔萬葉集八 春相聞〕大伴宿禰坂上郎女歌一首

情具伎物爾曾有鷄類春霞多奈引時爾戀乃繁者、

〔空穗物語 樓の上下一〕はやくかの御かたに心よせさに〇さ誤恐てありし、やまとのすけなる人をめしいで、奉り給、

〔宇治拾遺物語一〕これも今はむかし、比叡の山にちごありけり、僧たちよひのつれ〴〵に、いざかひもちいせんといひけるを、このちご心よせにきゝけり、

〔源氏物語四十九 寄生〕いとしげう侍しみちの草も、すこし打はらはせ侍らんかしと、こゝろとりにきこえ給へば、〇略下

〔金葉和歌集八 戀〕題しらず

よみ人しらず